

鎖骨に天使が  
眠っている

ピンク地底人3号

「登場人物」

坂本 透

桐野 義男

透の親友

桐野 京子

義男の母

桐野 建人

義男の父

桐野 一恵

義男の姉

武田 柚香

一恵の友人

緑川 昌美

拓次の妻

緑川 拓次

戦場ジャーナリスト

## 「舞台」

京都府宇治市槇島の東を流れる宇治川。左岸堤防下に所狭しと並ぶ家々の中で一際目立つ一軒家がある。堤防から覗き込むと家の屋根には様々な色のペンキがぶちまけられている。雨で変色しているため読みづらいが「死ね!!」「自己責任」「日本の恥」或は極めて卑猥な言葉が書かれているのがわかる。何度も屋根は上塗りされている跡が見えるが悪戯が止む様子はない。

舞台はその家屋のガレージに隣接する庭。

庭は赤錆びた金網で囲われている。時折、堤防上の道路を走る車の振動が金網を僅かに揺らす。庭は元バスケットボール選手で現体育教師の家主、桐野建人によりハーフサイズにも満たないコートに作り変えられている。上手の金網にはゴールリングが備えてある。舞台中央奥上手寄りには扉があり、ガレージを改造して作られた桐野義男の部屋へ入ることができる。扉の横には横長の窓があり、カーテンがかかっている。窓の下には色褪せたベンチ、その横にはスタンド灰皿、自転車、組み立て前の段ボール、脚立、野球のバット、ペンキの缶、刷毛等が置いてある。即席で作られたと思われる青いトタンの雨よけがガレージの屋根から客席に向かってせり出している。舞台下手には小さい丸テーブルと椅子がある。テー

ブルにはスタンド式の鏡、口紅が置かれている。  
上手には母屋へと続く道がある。下手には開け閉めする度に  
ギシギシと軋む扉があり、外から自由に出入りすることが出  
来る。扉の向こうには雑草が生え放題の空き地が見える。

## 「時」

季節は夏。

この物語は現在と過去が並行して語られる。

現在は二〇一五年七月三〇日の一晚。

過去は二〇〇五年六月から二〇〇五年七月までの約二か月。

## 「納棺師」

死者（故人）を棺に納める職業人。

納棺師の仕事は大きく二つに分かれる。

一つは故人の身体を洗い清める湯灌。もう一つは故人を棺に  
収める納棺。

湯灌は式場で行われる場合もあるが、納棺師が大型バンで浴  
槽を当家に持ち込むこともある。

基本的に湯灌・納棺は二人組みで行われる。

## 【 ヲハニヤント (represent) 】

日本語で「代表する／典型となる」の意。

日本では馴染みのない言葉だが、二〇一八年現在の世界を語る上で、最も重要な言葉の一つ。

“物語の中に我々が求めるもの、それは「自分たちがどこかに所属している」「社会の一部として受け入れられている」というメッセージである。物語を通し、たとえ自分が人と違っていても、むしろ人と違っていいからこそ、自分が社会の一部であり、自分の存在に対して社会が耳を傾け、目を向けて、価値を見出しているというメッセージを受け取りたいのだ。

物語の中で、人々は自分の存在が代わりに体現される、レプリゼントされることを求めている。”

4

(FUZE『攻殻機動隊からセサミストリートまで、海外エンタメのキーワード「レプリゼンテーション」(representation)」と何か』[https://www.fuze.dj/amp/2017/04/representation.html?\\_twitter\\_impression=true](https://www.fuze.dj/amp/2017/04/representation.html?_twitter_impression=true))の冒頭から引用。

プロローグ（二〇〇一年九月一日）。  
暗闇の中、留守番電話のガイダンスが流れる。

You have a message……

P……

飛行機の轟音を背景に、誰かが携帯電話に向かって大声で喋っている。

声は轟音にかき消されていく。

★

現在（二〇一五年七月）。

夜の十九時頃。

桐野建人（義男の父）の通夜。

桐野義男が椅子に座って、手鏡をジッと見つめている。

口紅をとる。

口元へ。

その時、ガレージの扉から坂本透が現れる。

一瞬空を見上げた後、義男に気がつく。

目が合う二人。

沈黙。

義男 口紅、塗ってえや。

透 ……

義男 あかん？

透 ……

義男 あかんか？

透 ……

義男 久しぶりやな。

間

透 (ぱつと顔が明るくなり) おお!!

義男 久しぶりやな!!

透 久しぶりやな!!

二人は抱き合う。

透 お前、いくつやねん。

義男 わかるやろ？

透 わからへんわ。

義男 同級生。

透 中退やないか。

義男 それ言っちゃう？

透 言っちゃうね。

義男 お前、いくつやねん。

透 忘れた。

義男 嘘つけ。

透 ほんまに。

義男 嘘つけ。

透 嘘。二十七。

義男 二十七!!

透 お前もやんけ。

義男 二十七!!

透 見えへんやろ?

義男 見えへん。

二人は笑い合う。

だが次第に気まずくなる透。

義男は笑顔のまま、

義男 ……知ってるか? イギリス人は傘、ほぼほぼ使わへん。

だから俺も使わへん。

透 かぶれてるな。

義男 What do you do to die?

透 あ?

義男 What do you do to die? 訳してみてください。

透 ……死ぬために何をしますか?

義男 ぶー。

透 そう言うたやんけ?

義男 ちゃうねん。実はこれ、What do you do today のことやね

ん。イギリス人はeiをaiって発音すんねんな。だからtodayは

todayやねんな。俺も最初びつくりしてん。いきなりさ、「お前

どうやって死ぬんや」って言われてさあ。でもあれは「今日

はお前、何をするんだ」って意味やったんよ、驚き桃の木二

十世紀やん。笑うやろ?



透 ……

義男 でもまあこれぐらいなら降ってないようなもんやな。

透 てか英語？ 昔のお前やったら考えられへん。

義男 まあな。高二までケツから二番目やったし。引きこもってた時に勉強したんよ。

透 ……いつ帰ってきたん？

義男 (質問には答えず) お前が親父の納棺、やってくれたんやろ？

透 いや、それは別に。

義男 きっと親父も喜んでくれてるわ。親父はお前のこと、目をかけてたしな。

透 ほんまに俺でよかったんやろか？

義男 何で？

透 まだまだ見習いやねん。

義男 お前、納棺師になってどれぐらいなん？

透 もうすぐ半年。まだまだペーペーよ。

義男 どう？ きついかな？

透は苦笑いをする。

義男 だって先輩が柚香さんやろ？ あー見えてなかなか激しいところあるしな。いいやん。あんなんは技術よりも気持ちよせやろ？

透 技術も気持ちよ。

義男 そうかもな。結局、その場には立ち会えへんかったけど

感謝してんねん。

**透** うん。

**義男** お前、明日の告別式も来るんけ？

**透** いや、明日は仕事が入ってて。ほんまは来たいんやけど。

**義男** そうか。もう十分やし気にせんといてな。

義男は転がっているバスケットボールを手にする。

**義男** この街は変わらへんなあ。十年前のまんま。

義男は透にボールをパスする。

二人はパスをしながら、

**義男** もうやってへんの？

**透** 全然。

**義男** 足は？

**透** ジャンプせんかったら大丈夫。

**義男** そうか。スポーツは怪我がなあ。才能あったのにな。

**透** 怪我しないっていうのも才能よ。その意味では俺には才能  
なんてあらへんかった。

**義男** 厳しいな。

**透** そんなもんよ。

**義男** そんなもんか。

**透** そう、そんなもん。

透はパスをするのをやめる。

**透** ……何でなん？

**義男** ん？ 何が？

**透** 何で今なん？

**義男** そりゃあ親父が死んだから。

**透** そうじゃなくて。

透はボールをベンチの方へ転がす。

ボールを目で追う義男。

義男はベンチに座り、そばにあった刷毛をとる。

**義男** (刷毛を振りながら) 俺のせいやな……帰って来た時、こ

の家の屋根、見たわ。ごつついマンコマークが描かれてた。親

父は一体、何回、塗り直したんやろうか。その度に「お前の

せいや」って俺のこと、毒づいてたんかな？

**透** お前のせいじゃない。

**義男** ……ええよ？ 言ってくれて。ほら、お前のせいやって。

**透** ……

**義男** ほら。言えって。

**透** ……

**義男** なあって。

義男はそう言いながら軽く、透の胸を押す。

**義男** ほら。言えって。言えって。ほら。ほら。

義男は何度もそう言いながら徐々に本気になってくる。

透は背中をガレージにぶつける。

**義男** 言えや!! スッキリすんぞ!! 簡単やろが!!

**透** ……

義男は透から離れて自転車を舞台中央へ持って来る。

さつきとは打って変わり、ニコニコしながら自転車の備え付けの鍵を指差す。

鍵はドライバーでこじ開けられている。

**義男** 見てこれ。あの頃と同じ。

**透** ……

**義男** あの時、お前、頭に湯気立てて怒ってたな。

**透** ……

**義男** 今も俺のこと、怒ってるのか？ ……なあって。

★

過去（二〇〇五年六月）。

土曜の昼。

激しい蝉の音。

義男と透がいる。

**透** お前、何してんねん!!

**義男** うるさいなあ。いきなり大きな声出しなや。

**透** そんなん一言も言うてなかったやん。

**義男** 言うた言うた。

**透** いつ？

**義男** 夢の中で。

**透** お前。

**義男** ええやんかチャリぐらい。

透 ええことないやろ？ お前、それ窃盗やんけ？

義男 大げさな。みんなやっどるわ。

透 みんなやっどるからお前もやるんか？

義男 透。いいか？ 未成年って言葉知ってる？

透 知っどるわ。

義男 少年法って知ってる？

透 知っどるわ。

義男 未成年はな。何をして警察には捕まらへんねん。

透 捕まるわ。

義男 え？ じゃあ少年法って何や？

透 いくら未成年やからってチャリばくったの見つかったら警察連れて行かれて親、呼ばれるわ。

義男 ええやんか。呼ばれたら呼ばれたで。大丈夫。ちゃんとフォローするよ。

透 お前、何を俺が盗んだ体<sup>てい</sup>で話してんねん。

義男 たとえ話やないか。

透 俺は知らんぞ、お前が俺のあずかり知らぬところで盗んで、俺にチャリ漕がせただけ。

義男 それを共犯という。

透 言わへんわ。ちよつと返しにいこ。

義男 えーせっかく。パクったのに。

透 お前、自分の持っどるやんけ？

義男 ちゃうねん。パクられてん。ほんま腹立つわ。ちよつと

鍵つけんとアルプラ停めてたらあつという間。腹立ったから、  
近くにあつたやつをパクったつた。

注…アルプラザ／総合娯楽施設

透 お前、いつでもドライバー持ってるの？

義男 おお。

透 お前は人にチャリをパクられたらお前もパクるんか。

義男 だってないやん、自転車!!

透 お前、あほやろ。

義男 ぶふー。

透 ……返しに行く。

義男 あかんて。

透 行くぞ義男!!

義男 俺はここから一步も動きません。どっこいしょ。

義男はその場に座りこむ。

義男 奈良の大仏。

透 ……

義男 お前もやろ。

透 ……

義男 お前、知ってる？ 奈良の大仏、誰が作ったか？

透 ……

義男 知らん？

透 ……

義男 あれ作ったんな……宇宙人。

透 ……

説得を諦めた透は自転車をベンチ脇に置く。

**義男** 世界まる見え特捜部な？ 俺、世界まる見えには絶対の信頼を置いてんねん。だって丸見えやねんぞ……そこにダンボールあるやろ？ 隠しといて。

**透** 自分でやれや。

**義男** 頼むわ。俺、瞑想中やし。

透はダンボールを使って自転車を隠す。

そこへ桐野一恵（義男の姉）と武田柚香（一恵の友人）が下手から入って来る。

**義男** あ。

**一恵** あれ。あんた、今日、部活は？

**義男** 休み。

**一恵** ほんまに？

**義男** ほんまやって。

**一恵** あんたすぐ嘘つくから。

**義男** つかへんわ。ほんならなんで透もおるねん。

**一恵** ……それもそうか。

**透** ちす。

一恵と柚香はお互い顔を見合わせてから、

駆け足で透の元へ。

**一恵** この前の試合、めっちゃかっこよかったよ。

**透** マジすか。

**一恵** めっちゃかっこよかった!! 柚香なんて泣いちゃって。

**柚香** 泣くだろ!! そりゃあ泣くだろ!!

**透** いやでもあれはたまたま。なんていうか岡崎からのパスが良くてさ。

**柚香** 謙遜!! あんなシュート打つときながら謙遜!!

**一恵** そういうところがね。モテんねんな。

**柚香** モテるんだな。

**一恵と柚香** ねー?

**透** この前はありがとう。

**一恵** ん?

**透** CD。

**一恵** あ。どうだった。

**透** うん。MDに入れて毎日聞いている。

**一恵** そっか。よかった。気に入ってもらえて。

**柚香** え? 本当に? なんか変わってない? めっちゃマニアックなのばっかやん、一恵が好きなのって。

**一恵** あんたがメジャーすぎるんよ。何がGLAYよ? ブラ  
ンキーの方がかっこええもん。

**柚香** アー写(アーティスト写真)見たけど、なんか怖いし。

**一恵** 子供やな。

**義男** 俺はGLAYの方が好きやな。

**柚香** よっちゃん。わかってるやん。

**透** いやでも本当に俺、ブランキー、すげー好き。



一恵 (袖香に) ほら? (透に) また別の奴も貸してあげる。

透 マジで?

一恵 うん。

義男 今日、河原町に映画行くんちゃうんけ?

一恵 前売り、忘れた。

義男 うっわ。

一恵 取りに帰って来てん。ほんまに今日ついてない。映画行くまでアルプラのフードコートにおったんやけど、自転車パ  
クられて。

透と義男は間抜けに目を合わせる。

一恵 ほんで警察に被害届出して。そしたらチケットなくて。

袖香 大丈夫だって。返って来るって。

一恵 ほんまにありえへん。絶対見つけたら私、そいつのこと  
ボコボコにしたんねん。二人ともさ。もし私のチャリ見つけ  
たら絶対教えてな。茶色のやつでちよっとわかりづらいかも  
やけど。

そこへ買い物袋を持った桐野建人(義男の父)と京子(義  
男の母)が下手から帰って来る。

京子 ただいまー。

一恵 おかえり。

京子 あれ? あんた今日、映画行くんとちゃうん?

一恵 これから。

袖香 お邪魔します。

透 お邪魔します。

京子 こんにちは。今日は賑やかやな。

京子は煙草を吸い始める。

建人 (透と義男に) お前ら何してんねん。

透 いや、ちよつと一恵さんにCD借りてて、それ、返したくて。

建人 あ？

透 いやその……

袖香 一恵。

一恵 ……お父ーさん。

建人 あ？

一恵 へへ。ちよつとそこ座つて。

一恵は建人を椅子に座らせ、建人の肩を揉み始める。

一恵 こつてるやん。

建人 お前なあ。

一恵 まだ何も言つてへん。

建人 どんだけ典型的やねん。もつと他にあるやろ？

一恵 何が？

建人 何や。サザエさんみたいな真似しよつて。

一恵 そんな声、出さんというて。ていうかそれをいうならワカメちゃんな。

建人 何が欲しいねん。

一恵 ……欲しいっていうか、行きたいっていうか。

I

建人 どこへ。

一恵 ……沖縄。

建人 ……誰と。

一恵 袖香。

建人 ……あかん。

一恵 何でえ!!

建人 んなもんあかんに決まってるやろ。どこの親が未成年二人で旅行させんねん。

袖香 うちの母の姉が沖縄に住んでて。一度来ないかって言われて。だから二人になるのは行きと帰りだけで必ず保護者がつく感じです。

建人 そんなアホな。お前のご親戚に迷惑やんか。

袖香 いや全然そんな感じじゃないんです。うちの母もオツケーって。

京子 ちなみにうちもええよ。

建人 ……お前ら、示し合わせたな？

一恵 お願いお父さんお願い!!

建人 お前、沖縄なめすぎ。めちやくちや危ないねんど。アメリカ兵がとんでもないことしとんねんから。

一恵 大丈夫!! 絶対いい子にしてる。

建人 えー。

一恵 ね? ね? ね、ね、ね?

一恵は建人の頭をわしゃわしゃし始める。

建人 一恵……

一恵 (遮って) わかっている!! 全部わかっている!! 言われなくてもゼーんぶわかっている。テストも頑張るし沖縄行ったら毎晩電話もする。夜出て行ったりもゼーへん。

京子 あんた、換気扇のフィルター、ご飯の前に張り替えて。

建人 いやでもな、

京子 ほらほら。

建人 (透に) あ。お前、まだ帰んなよ?

透 え?

京子は建人を母屋へと続く上手へ促す。

建人は去る。

京子 二人ともよかったな。

京子は去る。

一恵 きゃー!!

一恵は柚香と抱き合う。

一恵 ちよろい。ちよろいわ。

柚香 絶対、あかんと思ったけど。

一恵 お父さん。頭、わしゃわしゃに弱いねん。子供の頃からずつとそう。お願いするときは頭わしゃわしゃ。

するとダンボールがズリ落ちて自転車露わになる。

一恵と柚香は気がついていない。

透は義男に目で会話をする。

透 (おい!!)

義男 (うわ。)

透 (やばいって!!)

義男 (隠せ!!)

透 (え? なんて!!)

義男 (隠せ!!)

透 (全然わからん!!)

義男 (わざわざ自転車を指差し) パクられたチャリのことやけど。

透 (え!!)

問

一恵 あー!! どうしたん? どこで?

一恵は自転車を舞台中央に持って来る。

義男 宇治川沿い。

一恵 捨てられてたん?

義男 捨てられてた。

一恵 良かったあ。

柚香 言うたやん。絶対見つかるって。パンクとかは?

一恵 大丈夫ぽい。鍵は壊されてるけど。外付けの鍵なら家にあるしそれ使うわ。え? でも何でわかったん?

透 いや俺は……

義男 透が見つけた。急にあれって言い出して。急におやって言い出して、急に見たことあるって言い出して。

透 えつと……俺が……

**義男** (遮って) 見つけた。

**一恵** ありがとう。

**透** ……うん。

すると堤防からブレーキ音。

何かが撥ねられる音がする。

四人は堤防を見上げる。

**透** ……何？

**一恵** ……堤防沿いの道路、前から細いやん？ なんか増えてきて。撥ねられる猫がさ。

**柚香** ……

柚香は下手へ去ろうとする。

**一恵** ちよつとどこ行くん？

**柚香** うん。

**一恵** やめたといった方がええよ？

**柚香** ううん。大丈夫やし。

柚香は下手へ去る。

**一恵** ちよつと待ってて。ホンマにえぐいで？

一恵も去る。

残された二人。

**透** お前ってさ。そういうの平気？

**義男** ……

**透** 俺は駄目。

二人は何を言うでもなく堤防の様子を窺っている。

しばらくすると隣の空き地から二人の声が聞こえる。

**柚香の声** どこ？

**一恵の声** この辺かな……

土が掻き出される音が空き地から微かに聞こえてくる。

義男も空き地へ。

**一恵の声** ごめん。ちよつと。

**柚香の声** うん。

一恵は戻ってくるときこちなく透に向けて笑う。

透に背を向けて大きく深呼吸をする。

それを見ている透。

**柚香の声** ……オッケー。これでよし。

猫の血と泥で手を汚した柚香と義男が戻ってくる。

**柚香** 一恵、洗面所貸してくれる？

**一恵** うん。義男。うちら、このまま行くから。

**義男** わかった。自転車使う？

**一恵** ううん。歩いて京阪まで行く。

二人は上手へ去る。

**透** 柚香さんってすげえのな。俺には無理だわ。

**義男** まあ家、葬儀屋やしな。柚香さんは特別よ。特別。

**透** ……あ。

透は急に自転車の件を思い出し義男に近づく。

逃げる義男。

**透** お前、さっきの何やねん!! 何、俺を第一発見者しとんね

ん!! てかなんで? 弟なら普通わかるやろ!!

**義男** わからへんわ、あんなシヨボくれたチャリ。ええやん。株  
上がったやん。

**透** お前やん!! パクったのお前やん!! よくもまああんな  
白々しい嘘つけるな。

**義男** ちゃうねん、俺にはこうなることがわかってたんよ。俺  
はお前のためにチャリをパクった。それだけのことやないか。

**透** 何が俺のためになるわけ? え? 何が? 何が?

**義男** だっってお前、俺のねーちゃん、好きやん。

間

**透** 好きやない。

**義男** 好きやん。

**透** 好きじゃない!!

**義男** 顔、赤いよ?

**透** 赤くない!!

**義男** ホンマに何がええんか信じられへん。どこがええねんあ  
んなブス。

**透** 可愛いやないか!

**義男** 好きやん。

**透** あ。好きやない。

**義男** パンツ欲しいか?

**透** あ?

**義男** ねーちゃんの染み付きパンツ。



透 ……

義男 パンツ。

透 ……

義男 おーい。

透 そのシミってのは……何や。

義男 シミはシミや。

透 お前ホンマ殺すぞ。

義男 欲しいか欲しくないかどっちや。

透 ……それはお前に任せる。

義男 任せる？

透 俺がどうこうじゃないから。

義男 ……やらしい男やで。

透 やっぱり違う。いらない。

義男 キンハーの新しいの貸せ。それで手を打ったる。

注：人気ゲーム、キングダムハーツの略。

透 はあ？ この前発売されたばかりやぞ。

義男 それぐらいの価値はあるやろ。ないとは言わせへんぞ。

もしおまえがいらへん言うならうちのねーちゃんよりお前は  
キンハーが好きってことになる。お前の想いってのはそんな  
もんやって認めることになる。そしてそれを俺がねーちゃん  
に伝えることになる。

透 おかしいおかしい。色々おかしい。

義男 どうする？ 貸すんか貸さへんのかどっちや。

間

**透** 明日、持ってくる。

透は手を差し出す。

握手を交わす二人。

そこへ建人が上手より戻ってくる。

**建人** ……

**透** もう用は済んだんで僕はこれで。

**建人** 待て待て。

建人は煙草をポケットから取り出し火をつける。

**建人** お前ら、今日、練習休みにしたのは、来週の期末テストのためなのはわかってるな？

**透** わかっています。

**建人** お前ら、次のテストあかんかったら、試合出さへんからな。

**透** はい。

**建人** こんなところで油売ってないでちゃんと勉強せえ。

義男はガレージへ去ろうとする。

**建人** 義男!! どこ行くんや。お前にも言うてんねんぞ。

**義男** 俺、補欠やし関係ないやん。

**建人** あ？

**義男** (透へ) またな。

義男はガレージへ去る。

**建人** この前の試合、ようやったな。

**透** あ。ありがとうございます。

**建人** 客席に体育大学の先輩来ててな。めっちゃお前のこと褒めとったわ。

**透** マジすか。

**建人** うん……お前、進路どうするんけ？ バスケ、続ける気、あんのか？

**透** いやちよつとまだわかんなくて。正直、日本のバスケでやってくのつてきついじゃないすか？ まあ昔、スラムダンクが流行ったおかげでめっちゃプレイ人口増えてますけど。

**建人** それはそうやねんけど。でもお前、成績悪いやんか。

**透** それ、言わんといってください。

**建人** 別に選手になれつて言ってるわけやない。選手になれへんくても大学行ったらワシみたいに先生にだつてなれるし、色んなところで働ける可能性あんねんで。バスケの推薦で入つて、その先はまた後で決めたらええんちやうか？

**透** 確かにそうっすね。

**建人** 俺が何言いたいかわかるか？

**透** 来週の期末。

**建人** わかつてるやん。

**透** うす。じゃあ……俺はこれで。

**建人** 待ちなさい。何や。お前も俺と話すの嫌なんか？

**透** いやそういうわけじゃ。

沈黙

建人 ……（腹を決めて）どうやねん。あいつ。

透 ……どうやねん、とは。

建人 だから、その…お前らいつも一緒やんけ。あいつ、これからどうするつもりや。

透 ああ…それは俺にも。

建人 勉強ができるわけでもない。お前みたいに運動出来るわけでもない。何か特技があるわけでもない。

透 はは。

建人 何がおかしいねん。

透 あいや。

建人 何や？

透 何でもないです。

建人はベンチ脇にあったバットを持って、

建人 何でもない奴が笑うか？ 笑わんやろ？ 何がおかしいねん。

透 えつと…典型的やなあつと思つて。

建人 あ？

透 やっぱり聞けないもんすか？ 父親つて。

建人 ……わからんねん、あいつのこと。ホンマに。何一つわからへん。

透 誰かをわかるなんて無理つすよ。

建人 一応俺はあれやん。父親やんか？

透 だからこそつてこともあるかもですよ。

建人 ……

透 帰ります。

建人 おお……頼むで。お前だけが頼りやねん。

透 それは……次の試合のことっすか？ それとも……

建人 どっちも。

透 ……(につこりと笑って) はい。

★

現在(二〇一五年七月)。

義男 見てこれ。あの頃と同じ。

透 ……

義男 あの時、お前、頭に湯気立てて怒ってたな。

透 ……

義男 今も俺のこと、怒ってるのか？ ……なあって。

透 逆に聞くわ。お前は俺が怒ってると思ってるんか？

義男 ……わからん。

透 わからんて。

義男 (自転車をガレージの隅に移動させながら)俺は何かがわかったことなんて一度もない。いつだって見当はずれ。いつだって的外れ。てかわかるって何よ？ そんなただの自己満足ちゃうんか。

堤防からブレーキ音。

一人は堤防を見上げる。

義男は下手へ去る。

上手から柚香が入ってくる。

**柚香** (空を気にしながら) 誰と話してたん？

透は振り返る。

**柚香** 話し声。

**透** いえ別に。

**柚香** 独り言？ あかんよ独り言。変な天気。降ったり止んだり。こういうのなんていうんやったけ？ 驟雨？

**透** シュウウ？

**柚香** 知らん？ 吉行淳之介の小説。

**透** 全然。

柚香はベンチに座る。

**柚香** 部屋、そのまま残してるんだね。

**透** みたいですね。

**柚香** ベッドのシーツも洗ってるみたいやったし。でもよくが  
レージなんかに住んてたよ。

**透** 義男、どうしても自分の部屋が欲しかったみたいすよ。

**柚香** 冬とかどうしてたん。

**透** クツソ寒ですわ。

**柚香** げろーん。

**透** ほんでそこが宇治川じゃないすか。夏なんかシャッターの  
隙間からゴキブリが。

**柚香** やめてやめて。

**透** マジっすよ。まあ土足で入れる部屋ってのは新鮮でしたね。

**柚香** 外人やん。

**透** はは。そういえば、この前のバレーの試合、どやったんすか？

**柚香** 聞くそれ？

**透** あ。

**柚香** うちが透くんに報告せーへん時点で察して。

**透** すいません。

**柚香** ボロ負け。うちらが勝てるわけないやん。あつちは南区

一の強豪よ？ 元バレー選手とかもおるねんで？

**透** マジですか？ ママさんバレーでしょ？

**柚香** それがいるんよ。マジのマジよ。ボレーって知ってる？

**透** (手を振り下ろし) これでしょ？

**柚香** あんなん、まともに受けてみ？ 死ぬよ？ ズバコーン

つて音するんよ？ 逃げた逃げた。京子おばちゃん以外、み

んな受ける気なし。せっかく来週の土曜、勝てた時のために

無理やり休みとってたのに。

**透** え？ 勝てると思ってたんすか？

**柚香** 当たる相手はその日に決まるの。

**透** ああ……

**柚香** ……納棺。泣くんかかって思ったけど。

**透** 泣きませんよ。

**柚香** でも知り合いの納棺は初めてやる？ ましてバスケットで世話なつたコーチやし。高ぶつたりせんかった？

**透** それは柚香さんも一緒でしょ。

**柚香** あほ。うちがどんだけこの仕事してきた思うねん。子供の頃から見てきたんやで？ ペーペーの君と一緒にせんとい

**透** すいません。

**柚香** うちが先輩。ユ一、後輩。

**透** どうでしたか？ 今日の納棺。

**柚香** ん？ 十五点。

**透** 低つ。一個も間違わへんかったはずですけど。

**柚香** 何が足りないと思う？

**透** んー。

**柚香** わかってないから十五点。

**透** 教えてください。

**柚香** とりあえず透君はまだ自分自分やから。

**透** いや、ちゃんと故人さんのこと考えながら……

**柚香** (遮って) 考えてない。それは考えてる気がしてるだけ。

これがわからへんうちは、独り立ちはさせへんよ。

**透** ……

**柚香** あとは集中力かな。

**透** あ。いやあれは違うんです。ちょっとへんなこと思い出して。昔、よく義男と一緒にコーチに銭湯連れて行ってもらっ



て。

**柚香** 神明湯？

**透** はい。ほんで服脱ぐじゃないですか？ そしたらコーチのあそこがすごくて。あんなん見たことないですわ。

**柚香** あ！ まさか洗体してる時、噛み締めたん、あれ、笑い堪えてたん？

**透** すいません。いや、でも一度思い出したら止まらんくて。むちやくちやデカかったんすよ。

**柚香** それ、おばちゃんに言うたらあかんからね。

**透** 言うわけないでしょ。

**柚香** ほんまに？

**透** なんて言うと思うかがわからへん。

**柚香** ……で、どやったん？

**透** え？

**柚香** 大きさ。今も変わってへんかった？

**透** 流石にしよぼくれてましたね。

**柚香** そうか。まあ死んだらもうエッチも出来ないしなあ。

**透** それこそおばちゃんに言うたら駄目ですよ。

**柚香** 言うわけないやん。

**透** 柚香さんってとんでもないところから突然、爆弾放るじゃないですか。

**柚香** ……そうなん？

**透** そうですよ。

京子が上手から入ってくる。

京子 はーしんど。

柚香 お疲れ様です。今、どんな感じですか？

京子 どんちゃん騒ぎ。通夜が湿っぽかったら、あいつもやりきれへんとか言い出して。

京子は煙草を取り出す。

柚香 誰がですか？

京子 ごっついデブのおっちゃんおったやろ？ あれ。旦那の従兄弟やねんけど。

柚香 めっちゃ言いそう。

京子 ちよつと私は休憩。悪いんやけど、柚香ちゃん、戻ってくる？

柚香 了解です。ゆっくり休憩しといてください。

京子 ごめんな。

柚香は上手へ去る。

京子 (空を見上げながら) 花火大会、大丈夫そうやな。

透 はい。

京子 あの人が教えた生徒、ほとんど来てくれへんかったわ。

透 そうですか。

京子 やっぱりあるんやな、世間体っていうのが。どうなん？

透 君もやっぱりここへくるん、具合悪かった？ ましてや納棺してくれとか。

透 まさか。俺は全然……全然です。

京子 そう？

透 はい。

京子 この前も東京の記者が来たわ。すごいよなあ。ああいう人。人の不幸を食いもんにすることに一切躊躇がない。今更調べてどうするんって感じ。「真実が知りたいただけなんです！」とか食い下がって来てさあ。何やねん真実って。そんなん私だって知らんやん。なあ？

透 はい。

義男が下手扉の前に現れる。  
立ち止まる義男。

透と京子は気が付いていない。

京子 ……聞いていい？

透 はい。

京子 もしかして透くんは、全部知ってるん？ なんであんなことになってもうたんか。

透 ……まさか。

沈黙

京子 ……ちよつと待ってて。

京子はガレージへ去る。  
すぐに戻ってくる。

京子 はいこれ。

と黄ばんだセロテープがついた小さい鍵を渡す。

京子 この間、あの子の部屋、掃除した時に見つけてん。たぶ

んセロテープでベッドの裏に貼っとって、テープが劣化して  
床に落ちたんやと思う。ずっと開かへん引き出しがあつて。

透 いやでもこんなん渡されても。

京子 うちは怖くて開けられへん。捨ててもらってもええから。

透 ……

柚香が上手から戻ってくる。

柚香 おばちゃん。

京子 どうしたん？ あ、まさかセクハラ？

柚香 そうじゃなくて……ちよつと。玄関にきてるんです。

京子 誰が？

柚香 ごめん。ちよつと来て。

柚香は京子を引っ張って上手へ去る。

義男が下手から入ってくる。

義男 死骸、なかったわ。ギリギリ当たらへんかったんやと思  
う。

透 ……

義男 それ、開けてみよか？

透 いつから聞いてた？

義男 いつからでもええやん。

と言うと突然、走り出し透から鍵をさつと奪い取る。

義男は鍵を指先でチラつかせながら、

透 おい。

義男 実はな、俺も何を入れたか覚えてないんよ。ちよつと待

透 つててな。今から開けてくる。

透 あかん。

間

透 見たくない。

義男はガレージへ去る。

★

過去（二〇〇五年六月）。

昼間。

透がガレージの様子を窺っている。

透 おい。まだけ？

ガレージから義男の声がする。

義男 もうちよつと待って!!

透 ホンマに何やってんの？

義男 だからそれは後のお楽しみって言ってるやん。

義男はガレージの扉から顔だけ出す。

透 出来たん？

義男 ……まだ。

透 もう!! イライラするわあ!!

義男 もうちよつとやし。

義男はラジカセを置いて再生ボタンを押して再びガレージ

へ。

Mr. Children 『Innocent World』が流れる。

透はバスケットボールを拾う。

ドリブルをしながらレイアップシュートを決める。

すぐに足に違和感を感じしやがむ。

**透** まだ無理か。

すぐに立ち上がり、溜息をつく。

ガレージを見る。

**透** ……しかしまあ名曲やけどもミスチルって……（大きな声

で）何でミスチルやねん！！

**義男** え？

**透** （さらに大きな声で）何でミスチルやねん？

**義男** だって名曲やん！！

**透** うわ。意味ないんか。

するとガレージから大きなバスタオルを上半身にかけて義

男が歌いながら現れる。

舞台中央へ。

客席に背中を向けてバスタオルを上からゆつくりと脱ぐと、

黒いブラジャーが露わになる。

**透** いやいやいやいや。

**義男** え？

**透** お前、何してんの？

**義男** ストリップ。

**透** ……はあ？

**義男** 可愛い？

義男はさらにバスタオルを下ろしていくので、

**透** 待って待って待って!! 庭!! ここ、庭!! 堤防からも丸見え!!

透はラジカセを止める。

義男は堤防上に一恵の姿を確認する。

**義男** あ!! やばい! ねーちゃん、帰ってきた!

義男はガレージに去ろうとする。

**透** おい。ちよつと待ってて。

**義男** 後は頼む。実はこれ、ねーちゃんのやつやねん。

義男は慌てて去る。

少し経ってから一恵が下手から入ってくる。

**透** おいっす。

**一恵** 義男は? おったの見たで。

**透** トイレ。

**一恵** そう。どう? 足の調子。

**透** うん。ちよつとひねっただけやし。普通に歩く分には。

**一恵** しばらくバスケはお休み?

**透** そうだね。

**一恵** そっか。それは痛手やわ。お父さんも頭抱えてたよ。

**透** ホンマに?

**一恵** だって透君、うちのバスケ部のエースだしさ。まあそんなん言うても仕方ないね。ゆっくり休んで。

**透** ありがとう。

一恵はベンチに座る。

一恵 ……いつも義男と遊んでくれてありがとね。

透 別に感謝されることなんて何もしてないけど。

一恵 いやしてるよ。あの子、ちよつと素直すぎるとこあるやんか？ 思い込んだら一直線。まあ馬鹿と紙一重っていうか。キレたら手に負えへんし。だから結構みんなにからかわれたりして…：君が中学でこっちに引っ越してくるまで義男を馬鹿にせーへん友達ってほとんどおらへんかったんよ。

透 そうなんや。

一恵 お母さんお父さんも喜んでるんよ。君がよくうちに来ること。ぶっちゃけめんどいやんあいつ？

透 (苦笑いをして) たまにね。でもそこがあいつのいいところやん。

一恵 ははは。

少しだけ会話が途切れる。

透は胸の高鳴りで上手く次の言葉が言えない。

一恵は全く気にならない様子。

透 めずらしいね。柚香さんと一緒じゃないなんて。

一恵 うん。ちよつとね。今日は一人になりたくてさ。

透 あ…：えつと、ごめん。

一恵 え？ 違う違う。そういう意味じゃないよ。

一恵は身体を伸ばしながらベンチに仰向けで寝転がる。

宙を見ながら、



一恵 ……君はさ。好きな人おるん？

透 ……えっと。

一恵 私はおるで。

透 ……そうなんや。

一恵 でもその人、今日、柚香に告白してん。

透 ……へえ。

一恵 柚香はモテるしな。

透 うん。

一恵 でもちよつと変な感じなんよ。あたし、その人の事、好きやつて思ってたんだけど、なんか違ってたみたい。

透 どういうこと？

一恵 逆やねんか。その人が取られるじゃなくて柚香が取られると思っちゃった。

透 ……よくわからへん。

一恵 柚香ってホンマに不思議よね。どーしてあんなにみんなを惹き付けられるんかな。

透 そうかな？

一恵 そうよ。なんかずるいねん。柚香って。

透 ……

一恵は身体を起こしながら、

一恵 とか言う私ってほんま最悪やな。友達やのに。

透 そんなことないよ。

一恵 そんなことあるよ。

透 ……あのみ。

ブレーキの音。

猫が跳ねられる音。

透 ……またか。

一恵 ……君は私のことどう思う？

透 ……どうって？

一恵 私も袖香みたいになれるかな？

一恵は舞台上をうろろし始める。

一恵 よし。いける。

一恵は下手扉へ行こうとする。

しかしすぐにその場に立ち止まり口を抑えてうづくまる。

透は一恵の背中をさする。

透 大丈夫？

一恵 ……やっぱり私には無理か。想像しただけでこれやもん。

透 そんなん、俺やって無理やわ。袖香さんは葬儀屋の娘やからさ、死体とかそういうん、慣れてんねん。あんなん持ってへん方が普通やって。

一恵は立ち上がる。

一恵 ありがとう…でもね。普通とか普通じゃないとかさ、そういうことじゃないんよ。

透 ……

一恵 透くん。うちと付き合わへん？

透 え？

一恵は上手へ去る。

あまりの急展開にわけが分からず取り残される透。

ゆつくりと日が沈み、夜がやってくる。

ラジカセから音楽。

ガレージの窓が浮かび上がると上半身裸の義男が鏡の前でブラジャーをつけている。

自分の姿を何度も確認する義男。

最初は自嘲気味に己の姿を笑っているが、少しずつ顔が真剣になってくる。

目は輝き、同時に不安に喘ぎ始める。

突然、泣き顔になったかと思うと左腕の力こぶを右手の拳で何度も叩き始める。

血が滲むほどに腕に爪を立てると、両手で顔を抑え込む。身体の違いに耐えられない。

すると一恵の声。

**一恵** 義男？ 入っていい？

義男はハッと後ろを振り向く。

一恵が入ってくる。

**一恵** また勝手にとったな……サイズ、合っていないよ？

といつても義男を責めている訳ではないようだ。

**義男** ……

**一恵** 来月の誕生日、何が欲しい？

義男 ……

一恵 とびっきりのやつ、考えてるから。期待しといて。

義男 ……

一恵は口紅を取り出す。

義男の唇に塗ってあげようとした瞬間、  
暗転。

★

現在（二〇一五年七月）。

義男は鍵を指先でチラつかせながら、

透 おい。

義男 実はな、俺も何を入れたか覚えてないんよ。ちよつと待  
っててな。今から開けてくる。

透 あかん。

間

透 見たくない。

義男はにつこりと笑ってガレージへ去る。

すると下手扉の前に緑川昌美が現れる。

昌美 こんにちは。

透 こんにちは。

間

透 ……参列者の方ですか？

**昌美** ええ。

**透** でしたらこっちは裏口になるんで、正面に回っていただけ  
たら。

**昌美** いえ、こちらで待っていて欲しいって。

**透** あ。そうですか。

**昌美** 失礼します。

昌美は庭に入ってくる。

**昌美** 煙草、いいですかね？

**透** はい。

**昌美** すいません。

昌美は煙草に火をつける。

**昌美** やめてたんですけど。またはじめちゃって。

**透** ああ……俺は今、禁煙中です。

**昌美** どれぐらい続いているの？

**透** 半年です。

**昌美** そろそろ来ますよ。

**透** マジですか？

**昌美** そのぐらいがね、一番危ない。なんか吸ってみようかな  
って。そしたらあつという間に元どおり。

**透** 気をつけます。

**昌美** ご家族の方？

**透** いえ。僕は……

**昌美** 故人さんの教え子？

**透** そうですね。えっとそちらは……

**昌美** 私は京子さんの……なんて言ったらいいのかな。友達？  
……一週間前から宇治に滞在してて。アーバンホテルって知  
ってます？ 京阪宇治の駅前。

**透** 一階がサイゼリアの……

昌美は急にテンションが上がり、

**昌美** そう！ サイゼリヤ。好き？ サイゼリヤ？

**透** サイゼリヤですか？

**昌美** すっごい安いでしょ？ え？ 行かない？

**透** いえ、あんまり。

**昌美** ほうれん草グラタン。三九九円。めちゃくちゃ美味しい。  
おすすめです。たぶん好きだと思う……いや絶対好き。

**透** ……

**昌美** ほうれん草顔。

**透** ……僕がですか？

**昌美** うん。好きでしょ？ ほうれん草。世の中にはさ、ほう  
れん草顔とほうれん草じゃない顔があるのよね。さっき顔を  
見た時にばって思ったの。間違いない。ほうれん草顔だつて。

透は苦笑いをする。

**昌美** ごめんなさい。いきなり超失礼だよね。

**透** いえ。でも初めて言われました。そんなこと。

**昌美** はー。恥ずかしい。

**透** どちらから来られたんですか？

**昌美** えっと東京から。

**透** え。

**昌美** 凄いタイミングが悪かったです。宇治駅の方、交通規制がかかって。今日、宇治川の花火大会だったこと、全然知らなくて。ここはホテルから離れてるから車でこれましたけど私、レンタカーで色々回っているんです。ご葬儀のついでといたら言葉、悪いですけど調べたいこともあって。

**透** 調べたいこと……

**昌美** うん、ちよつとね。

**透** 帰ってください。

間

**昌美** え。

**透** お話することは何ありません。

**昌美** あ。違うの。

**透** 警察、呼びますよ。いいですか？

**昌美** 警察？ ちよつと待って。

**透** あんたらの手口はわかってるんだ。そうやって最初はなんでもないふりして近づいてきて手のひらを返す。

**昌美** 本当に違うの。

**透** 本気です。

透はポケットから携帯電話を出す。

**透** 帰ってください。

**昌美** ……

昌美はポケットから名刺を出す。

**昌美** やっぱりちゃんと自己紹介した方がよかったですね。ごめんなさい。なるべく言わないつもりでできたから。

透は名刺を見る。

**昌美** 緑川昌美と申します……殺された、緑川拓次の妻です。

**透** ……

★

過去（二〇〇五年六月）。

昼頃。

緑川拓次（昌美の夫）がベンチに座り、血で濡れた両手を眺めている。

しばらくすると義男が上手から入ってくる。

濡れたタオルを拓次に差し出す。

**拓次** ありがとう。

**義男** うん。

拓次は手を拭きながら、

**拓次** ミシガンで見たことあるよ、こういう場所。金網があって雑草があつてベンチがあつてバスケットゴールがあつて

……好きなのバスケット？

**義男** 俺は別に。親父がコーチやねん。

**拓次** そっか。



義男 ミシガンって何？

拓次 アメリカの州。

拓次は庭を眺めながら、

拓次 でも一個足りないのはあれだな。ヒップホップだな。

拓次はリズムを取りながら、

拓次 宇治川♪観光の街♪お茶。

死ぬほど下手なラップを披露する。

沈黙。

拓次は手を差し出し、

拓次 拓次緑川。

握手など滅多にしない義男は戸惑うも張り合うように、

義男 よ、義男桐野!!

拓次 よろしく!

義男 お、おう。

拓次 いくつ？

義男 十七。

拓次 いいね。若者。

義男 いくつすか？

拓次 三十三。

義男 ……カメラマンすか？

拓次 ビデオも撮るよ。あと時々、先生したり……今、大阪の

大学の仕事で出張中なんだ。今日は休み。

義男 ……堤防で撮ってたん？ 猫の死骸。

拓次 うん。撮った猫は全部草むらに埋めてる。俺なりの礼儀かな。

義男 ……

拓次 轆かれた猫は自由か？ それとも不自由か？

義男 何それ。

拓次 俺は自由だと思ってる。死んで初めて自由になれる。

拓次は立ち上がり、ボールを手に取る。

拓次 外国は？ 行ったことある？

義男 ない。

拓次 行っておいたほうがいいよ。将来は何になりたい？

義男 将来？ わからへん。

拓次 今で精一杯って感じだろ？

義男 ……なんでわかるん？

拓次 年上だから。

義男 ……緑川さんは……何者なん？

拓次 怪しいよな。昼間っから猫の死骸。

義男 うん。

拓次はボールを置いて義男に詰め寄って、

拓次 そこは怪しくくないですって言うのが大人の嗜みな。

義男 そうなん？

拓次 戦場ジャーナリストって知ってる？

義男 何となく。

拓次 あれ。

義男 マジで？

拓次 マジで。

義男 初めて見た。

拓次 よく言われる。

義男 日本で何してるん？

拓次 それは平和な日本であって意味？ んーどうだろなあ。

義男 わからんけど。

拓次 遊んでる。

義男 遊んでんの？

拓次 うそ。戦場ジャーナリストって言っても四六時中その場にいるわけじゃないよ。海外にいるのは大体一年のうち五か月とか六か月かな。まあこれも年による。君もニュースで戦場の映像とか見たことあるだろ？ あれを撮ってテレビ局とか雑誌に売るんだ。

義男 へえ……凄え。

拓次 911の時、どこにいた？

義男 911って……飛行機なの？

拓次 そう。覚えてる？

義男 うん。すげー覚えてる。家でテレビ見てた……なんか映画みたいやった。

拓次 あの時、速攻でアメリカに飛んで現地からレポートしたんだ。

義男 マジか。

拓次 マジマジ。

義男 有名人やん。

拓次 有名人ではないだろ。

義男 いや有名人や。

拓次 知ってる？ あの倒壊したビル、今、建て直してるんだ。あんなことがあつて普通、建て直すか？ マジで気が狂ってるよなあ。はつきりいつてあのビルは常軌を逸してる。高すぎる。完全に人間の限界超えてるもん。一度、ビルの下から上を見上げたことがあるんだ。空に吸い込まれそうで気分が悪くなった。神様に言われてる気がした。お前ら、やりすぎだつて。まあ建てたのも建て直してるのも俺じゃないけどさ。人類への警告？ わかんないけど。

義男 ……

拓次 ごめんな。初対面でこんな話して。

義男 いや、面白い……いや面白いって言うか、なんて言うか……新鮮。

拓次 新鮮？

義男 そう！ 新鮮！ 面白いやろ？ よく言われる。

拓次 自分で言うな。

義男 自分で言つていくスタイル。

拓次 いいね。

義男 いいやろ。

二人は笑う。

拓次 ……君、俺に似てるわ。

義男 え？ 初対面すけど。

拓次 でも人と人がわかり合うって時間じゃないだろ？ 俺は

そう思うな。

義男 ……そう？

拓次はポケットから使い捨てカメラを取り出す。

拓次 使い捨てカメラなりの良さってのがあってだな。

拓次は義男を撮る。

カメラを放り投げて、

拓次 それ、あげるわ。

義男 いいの？

拓次 うん。カメラは本当を映すから。色々撮ってみたらいい。

ちよつとは生きやすくなるかもしれない。

★

現在（二〇一五年七月）。

昌美 緑川昌美と申します……殺された、緑川拓次の妻です。

透 ……

上手から京子が一人前の寿司を持って入って来る。

後ろには柚香。

京子 ごめんなさい。お待たせして。

京子はテーブルに寿司を置く。

京子 透君は初めてやんね？ 自己紹介は……

透 (昌美に) すいません!! 俺、

昌美 いえこちらこそ。なるべく言わないつもりできたから。

怪しかったよね。

京子 何かあったんですか？

昌美 たぶん東京からきたって言ったから勘違いされて。

京子 ああ……

京子は袖香を見る。

袖香 私も……

京子 ごめんな、最初に今日来るって言うっておけばよかったん

やけどバタバタしてたら忘れてもうた。(昌美に) 坂本透君。義

男と一番仲良くしてくれた子です。

透は小さく頭を下げる。

昌美 あなたが……そっか。義男くんから話は聞いてます。

京子 透くん。ちよつと昌美さんの車、車庫に入れてあげて。絶

対、傷いくし。

透 了解です。

昌美 ごめんなさい。あれはちよつと私には難しくくて。

昌美は車のキーを透に渡す。

袖香 手伝うわ。

透 すいません。

二人は下手へ去る。

昌美 この度はご愁傷様でございます。

京子 今日は本当にありがとうございます。わざわざきてくれて。

昌美 全然そんな。大変でしたね。

京子 ええ。でもいろんな方に手伝って頂いて何とか。

昌美はベンチに置いた紙袋を渡す。

昌美 これ、つまらないものですが。

京子 そんな。ええのに。

昌美 全然わからなかったし。東京ばな奈。

京子 聞いたことある。ありがとうございます……あ。座ってください。ほんまは居間にお通ししたいんやけど、まだいろんな人がいますんで。

昌美 大丈夫です。

二人はベンチに座る。

昌美 テレビ局で会って以来ですね。

京子 なんか全然そんな気しないけど。

昌美 私も。たぶんメールでやりとりしてるから。

京子 お仕事は？

昌美 有給もらって。

京子 そっか……本当にうち、あの時はあなたに助けられました。た。

昌美 私は何も。

京子 うちなんてただボロボロと泣いて意味の分からへんことを叫んでるだけやったのに、ずっと手を握ってくれて。昌美

さんはいくらフラッシュがたかれても堂々としてた。

**昌美** そんなことないですよ。私も京子さんがいてくれて助かりました。

**京子** ほんまに？

**昌美** ほんまです。

**京子** あ。関西弁。

**昌美** あつてます？

**京子** うん。

二人は笑う。

**京子** 食べてください。

**昌美** じゃあ……いただきます。

昌美は寿司を食べる。

**昌美** 美味しい。

**京子** 本読みました。誰にでもわかる映画の法則。

**昌美** 買われたんですか？

**京子** うん。

**昌美** そんな。言ってくれたら送ったのに。

**京子** 凄く面白かった。うち、映画なんて全然興味なかったけど、昌美さん映画の評論家してるって知ってから、月に一本観てるんよ。

**昌美** 評論家なんていいもんじゃないです。映画好きが高じて偶々。

**京子** 一番印象に残ったのが食事の法則。映画で親密になる二



人は必ず食事のシーンが入るって。そっかーって思った。

**昌美** ありがとうございます。あ。だから……

**京子** うん。

**昌美** 食べてください、京子さんも。

**京子** いいの？

**昌美** もちろん。

**京子** ……サーモン、好きやねんけど。

**昌美** 私、嫌いです。

**京子** 信じられへん。

京子も寿司を食べる。

**昌美** 京子さん。私、次に書く本を決めているんですけど……

**京子** また映画の？

**昌美** ……こんな日にあれなんです。が実は今日、京子さんに許可を取らせていただきたいと思ってきました。義男くんとうちの夫のことです。

**京子** ……

**昌美** 私、あの二人のことを本にしたいと思ってます。

**京子** ……

**昌美** ちょっとは気持ちの整理がついたのかな。最近、あの人が雑誌や新聞に投稿した記事とか何かあるたびに送られてきたメールを読み返して……その屋根、見ました。堤防の上から……世間的には今でもあの二人は愚か者のレッテルを貼られています。私はそうじゃないってことを証明したいん

です……協力していただけませんか？

沈黙

**京子** ……一つ悪いことが起きるとまた悪いことが起きて、永遠にそれは終わらへん。……その本を出したら、この悪い流れ、断ち切れるんですか？

★

過去（二〇〇五年七月）。

夕方。

透と義男がボールをパスし合っている。

**透** どう思う？

**義男** どうって？

**透** 全然、わからへんねんけど。

**義男** そのままの意味やろ？

**透** そうなん？

**義男** 好きやねんて。お前のことが。じゃないとそんなこと言わへんやろ？

**透** ……そやろか。

**義男** にやけんや！ キツシヨいのお。

**透** でもそのあと冗談冗談って言うねんで。そんな言われたら俺、どうしたらいいかわからんやん。

**義男** じゃあ冗談なんやろ。

透 え？ じゃああかんやん。

義男 知らん。

透 ……この前さ、岸本の家で初めて裏ビデオ観た。お前、観たことあるんけ？

義男 ……うん。

透 すごいな。女って。

義男 ……

透 いい？

義男 何が。

透 いや、もしやで。もしな。本当に一恵さんが俺と付き合ってくれたとしてやで。その、そういうことをやな。する機会がきたら……ええやろか？

義男 勝手にしろや！

透 ええの？ だってお前、弟やん。

義男 じゃあ俺がすんないうたらお前、せんのか？

透 ……どうやろ。

義男 だからにやけんなって。

義男は透の脇腹をくすぐりにかかる。

透 ちよやめて！

義男 何、一人で妄想してんねん！

透 きやわわ！

義男はすぐにどうでもよくなり、ベンチに座って俯く。

透 なあ。お前さ、ほんまにおらへんの？ 好きなやつ？

義男 おらん。

透 近藤とかどう？ めっちゃ巨乳やで。お前、好きやろ？

義男 ……

透 それとなく聞いたるか？

義男 いいよ。

透 何恥ずかしがってんねん。

義男 ええねん俺は。俺はお前みたいに背も高くないし……運  
動もできへんし。

透 関係ないって。お前にはお前の良さがいっぱいあるやんか。

義男 ……

透 ……何？ 泣いてんの？

義男 泣いてへんわ！

透 目、うるうるやで。

義男 うっさい！

透 そうか。俺の優しさが目にしみたか。

義男 ……ちよつとみて欲しいものあんねん。

義男はベンチに置いてある封筒を渡す。

透 何これ。

義男 いいから。

透が封筒の中身を見ると二十枚ぐらい写真が入っている。

透 写真？

義男 うん。

透 お前が撮ったん？

義男 うん。

透 どうしたん急に？

義男 この前さ、戦場ジャーナリストの人に会ってん。

透 何それ？ どこで？

義男 堤防で。知ってる？ 緑川さんっていうんやけど。

透 知らん。

義男 凄い人やぞ。テレビとかも出てるんよ。その人がくれてん。使い捨てカメラ。

透 へえ。

義男 どう？ なんか、ある？

透 うーん……普通？

義男 そっか。

透 え？ お前、カメラやる気なん？

義男 いや、そんなつもりないんやけど、その人が言ってるん。

カメラは本当を映すって。

透 本当を映す……うーん。

透はさらに写真をめくる。すると拓次が撮った義男の写真がある。

透 お前やん？ 微妙な顔しとんな。

透は写真を返す。

義男 ……やっぱりそうかな。

透の携帯電話が鳴る。

透 はい。もしもし。おーどうしたん？ 今？ 義男のどこや

けど。おお……アルプラのゲーセン？ わかった。義男と行くわ……え？ なんで？ ……何？ 聞いてへん。おお……まじで？ てか大丸に下着のディスプレイなんてあったっけ？ ……あーあそこか……おお。おるけど。

透は義男に携帯を渡す。

**義男** 誰？

**透** 柴田。(笑って) お前、何してんのよ。

義男は電話を受け取る。

**義男** どうしたん？ ……うん……うん……うん……うん……はあ？

義男は勢いよく電話を切る。

**透** お前、あかんで。いくら巨乳好きやからってそんなんマジマジと見てたら警察呼ばれるで。

突然、血相を変えた義男が下手へ向かう。

**透** ちよつと待ってって。

**義男** 殺したる。

**透** 何キレてんのよ。

**義男** (今にも泣き出しそうに) 俺のこと変態やって言いよつた!!

**透** なんでやねん、ギャグやんか。ほつとけや。あいつらの言うことなんか。

**義男** じゃあもしおまえが言われたらどうやねん。キレるやろ!!

**透** 落ち着けて!!

**義男**  
離せよ!!

義男は下手へ去る。

追いかける透。

庭から誰もいなくなる。

少しだけ時間が流れる。

上手から一恵が沖縄のパンフレットを持って入って来る。

ベンチに座り、パンフレットをめくり始める。

沖縄に想いを馳せ、思わず顔が緩む。

そこへバスケットボールを持った建人が入って来る。

建人は離れた場所から一恵を眺めている。

注：二人は同じ空間にいるが時間軸がずれている。

堤防から猫の鳴き声。

一瞬、身体を震わせる一恵だが無視をする。

しかし猫は鳴き止まない。

とうとう立ち上がる一恵。

堤防を見上げる。

一恵は何かを決意したのか、下手へ。

すれ違う一恵と建人。

★

過去（二〇〇五年七月）。

十八時頃。

夕暮れがかっている。

建人がボールをいじりながら、かつて一恵が座っていたベンチを眺めている。

リングに向かってシュートする。

入らない。

何度か投げるもやはり入らない。

**建人** あかんなあ。ほんまにあかんなあ。

もう一度だけシュート。

やはり入らない。

京子が上手から入ってくる。

**京子** ご飯やで。

**建人** おお。

**京子** 晩御飯、何やと思う？

**建人** カレー。

**京子** あ。当たり前。

**建人** 匂いでわかる。

**京子** 人参、えらい高くなってたわ。買ったけどな。一恵も好きやったし。

**建人** え？ 人参を？

**京子** せやん。

**建人** 知らんかった。



京子 まあ父親なんてそんなもんよ。煙草ちようだい。

建人は煙草を差し出す。

京子 出てこーへんなあ。義男。あんた、声かけた？

建人 ……

京子 かけーさ。何のためにここにおるんよ？

建人 現実感がない。

京子 ……

建人 どれだけ経ったん？

京子 一週間。

建人 そうじゃなくて。一恵が生まれてから。

京子 十八年。

建人 ……ほんまに死んだんけ？

京子 あんた。

建人 俺、はつきり覚えてるわ。あいつが生まれた時のこと。し

わくちやの猿みたいな顔してな。めちやくちや不細工やんけ

って正直最初びつくりして、こんな子、将来、嫁にもらって

くれる子、おるんやろかって思ったんやけど、何やみるみる

うちに可愛くなってきたな。なあ。ほんまに死んだんけ？

京子 ……ご飯、食べよ。

建人 何でお前はそんな平気やねん。お前が産んだ子ちやうん

か？

京子 平気な訳ないでしょ。

建人 そうや。あれはいくつぐらいやったかなあ。五歳か六歳

ぐらいやったと思う。二人で信号に並んどったら、急に飛び出そうとしたんよ。慌てて手を掴んだから間に合ってたんだけど、あれ？ この話、お前にしたっけ？

京子は首を振る。

**建人** あの時、こんな小っちゃい小っちゃい一恵に死ぬほど怒ってたな。何で怒られてるのかわからへんって顔やった。でもな。本当に俺が怒ってたのはあいつにじゃなくて俺にやねん。ちゃんと手を握ってなかった自分に俺は腹が立って腹が立つてもうどうにもならんくて……なあ。何でお前はそんなに平気なん？

**京子** 平気ちゃうよ。

**建人** わからへん。全然わからへん。

建人はガレージの扉の前へ。

**建人** 義男。開けなさい。いつまでそうやって引きこもってるつもりや……

建人はドアを叩き続ける。

それに合わせて語気が荒くなってくる。

**建人** 開ける!! 開ける!! 開けんかい!! 義男!!

**京子** そんなんじや出てくるもんも出てこーへんでしょ。

**建人** 一恵のことがあったからってお前がそうなっていいいわけにはならへんぞ!!

**京子** お父さん!!

**建人** いっぺんぐらい俺の言うこと聞いたらどうなんや!! 開

ける!! お前、このまま学校にも行かへんつもりけ?

**京子** 義男に八つ当たりしてどうすんのよ!!

京子が吹き飛ばされる。

それを見て、ハッと我に返る建人。

**建人** ……おい。大丈夫け?

**京子** 痛ったあ……

京子は建人の頬を叩く。

**建人** 痛ったあ。

**京子** 何すんのよ!! 逆やろ普通!! 取り乱すのはうちの役

目!! それを何をうちを差し置いて一人で暴れまわってんね

んな!!

嗚咽がこみ上げてくる建人。

建人は口を抑えながら再びガレージの扉の前へ。

しかし義男が鍵を掛けているため開かない。

何度もノブを回す建人。

**建人** どいつもこいつもどないなあってんねん……開ける!! 義

男!! 開ける!!

しかし開かない。

どうしようもなくなった建人は上手へ去る。

すぐに戻って来て庭を横切る。

**京子** どこ行くん!?

**建人** パチンコ!!

建人は下手へ去る。

沈黙。

京子はガレージの扉の前へ。

**京子**

義男。ごめんな。あの人はあかん人やねん。誰かにぶつ

けでもせんとどうにもならんのよ……ご飯、出来てるからね。

お腹空いてるやろ？ 出ておいで。

返事はない。

京子は上手へ去る。

沈黙。

空き地から猫の鳴き声。

さらに堤防上の道路からも。

ガレージから義男が出てくる。

鳴き声はどんどん数を増してくる。

鳴き声は実際に鳴っているのか、それとも義男の頭の中だ

けに響いているのか……

義男は庭に転がっているバットを拾う。

バットを引きずりながら空き地へ向かっていく。

★

過去（二〇〇五年七月）。

ガレージに向かって透が話しかけている。

椅子に座っている柚香。

**透**

義男？ 出てこいよ。スターウォーズ、観に行こうや。今

回のは面白いらしいぞ？ どうやってあいつがダース・ベイダーなるのか見たいやん？ お前のために俺、まだ観に行つてへんねん。おーい。義男。聞いているんやろ？ なあつて？ ええんか？ 柚香さんと二人で観に行つてしまふで？

**柚香** 面白いの？ スターウォーズって。

**透** めつちや面白いっす。(ガレージに向かって)なあ？ 面白いやんな？ (柚香に) 観たことないんすか？

**柚香** ない。

**透** まじすか？ おーい。義男。柚香さんにスターウォーズの面白さ、一緒に教えようや。お前の方が詳しいやろ？

**柚香** でもこのあいだのやつは面白くなかったっていう人おつたよ？

**透** こないだのやつって？

**柚香** なんか去年ぐらいのやつかな？

**透** エピソード2？

**柚香** 多分。

**透** 違うんす。プリクエルの1と2はもうスターウォーズじゃないから。

**柚香** プリクエル？

**透** 新三部作のことです。まあ俺も最初はエピソード1とかめっちゃ好きやったんすけど、後追いで旧三部作観て。これや！ ってなつて。

**柚香** ごめん。何を言ってるのか全然わからへん。

透 ちゃうんすよ。でもどうやら今やつてるエピソード3はい  
いって話なんすよ。

柚香 そうなん？

透 そうっす。おい義男？ 行こうや？ お前が出て来んかつ  
たら上映、終わってまうやんか？

柚香 透くん。もう二時間やで。

透 え？

柚香 そんなんいくら言うても出て来ないと思う。

透 ……じゃあどうしたらいいんすか？

柚香 私に一回、任せてくれへん？ たぶん、君には会いづら  
いんよ。

透 なんで？

柚香 ……君さ。一恵のこと好きやったやんか？

透 え!!

柚香 よっちゃんに相談されたことあんねん。あんたと一恵を  
くつつけようって。

透 ……（ガレージに向かつて）お前、何勝手なことしてんねん!!

柚香 ええやんか。君のことを考えてだな。

透 信じられへん……お前、ほんまにええ加減にせえよ!!

透 は色んなことを急に思い出し、泣きそうになる。

透 帰ります。

透 は下手へ去る。

柚香 はガレージに向かつて、

**柚香** ごめんね。言っちゃった……引きこもりたい気持ちはわかるけどさ、そんなことしても意味ないで？ 透君と無理やったらうちと遊ぼ？

返事はない。

**柚香** 私さー。実はね。こんなこと言ったら語弊があるかもだけれどね、あんまり悲しくないねんか。なんでかわかる？ あのね。一恵はさ、確かに死んじやったけどさ。それはね、これでおしまいって意味じゃないんよ？ 私の家、葬儀屋やろ？ 私、子供の頃からずっとどうして人は死んじやうのかって考えてた。でね、最近、やっというんな事がわかってきてん。哲学というものに出会ったのだよ……へへん。

返事はない。

**柚香** ……ねえ？ よっちゃん。いつだって私たち、一恵に会えるねんで？ 知ってた？ これ、本当だよ。

返事はない。

**柚香** 本当やでー？ 本当やねんからー。

返事はない。

柚香は帰ろうとする。

するとガレージから義男が出てくる。

柚香は笑って、

**柚香** まるで天照大神やな。

**義男** あいつは？

**柚香** 帰った。

**義男** そうっすか。

**柚香** 思ったより元気そうやんか。

空き地から猫が鳴く。

義男は素早くガレージに戻り、バットを持ってくると下手

へ。

**柚香** 駄目。

**義男** ほっといてください。

**柚香** そんなことしても何にもならんのはわかるやんね？

**義男** いいじゃないすか猫ぐらい殺しても。

**柚香** (突然激昂して) いいわけないやろ!!

**義男** ……

**柚香** 次、もしそんなんしようとしたら、よっちゃんであって

もうち、許さへんよ。それにバットなんかじゃすぐ逃げられ

て殺せへん。せやろ？

義男はバットを庭へ捨てる。

**義男** あいつらのせいじゃないですか!! あいつらがおらへん

かったらこんなことにはならへんかったんや!!

**柚香** それは違う。

**義男** 違いますよ!! それにね、猫ってみんなが思ってるよ

うな可愛いもん違いますよ。俺、この前、猫同士が殺し合っ

てるの、見ました。何で争ってたのかはわからへん。でもお

互い、相手の喉元に噛みつこうとしてぐちゃぐちゃに転がり

まわって!! ……わざとなんすよ。あいつらわざと道路に飛



び出してねーちゃんをおびき寄せたんすよ!! そーいうやつらなんすよ!!

**柚香** もしそうだとしても猫をあんたが殺していいことにはならへん。猫のせいにするならうちのせいにして。あの時、うちが猫を助けへんかったらきつと一恵はあんなことはせーへんかった。違う? 殺すんならうちを殺してみなさい!!

義男は気圧され、何も言えなくなる。

柚香はベンチに座る。

**柚香** ……ごめん。こんなこと言うために来たんちゃうんやけど。

義男は柚香の隣に座り、柚香の気持ちに寄り添うように彼女の手に自分の手を重ねる。

**義男** ……ねーちゃんだけやったんです、俺のこと、わかってくれたの。

**柚香** 透くんもいるやんか。

**義男** あいつに俺のことなんてわかるわけない。

**柚香** ……君、ハイデガーって知ってる?

**義男** ……

**柚香** 哲学者。その人が言ってるんだ。言葉には二つの作用があるって。一つは物事を生み出す根源的な力。もう一つは物事を分別する力。

**義男** なんすかそれ。

**柚香** どうして人は死ぬと思う?

**義男** どうしてって……それは心臓が止まって……動かなくな  
って……

**柚香** それはもちろんそうんだけど、「死」っていうのを知っ  
ているのは人間だけなんだ。それはね。言葉を持っているの  
は人間だけだからなんよ。人間以外の動物は「死」を知らな  
い。なぜなら動物は言葉を持ってないから。

**義男** ……

**柚香** 言葉がいつだって先やねん。「死」という言葉があって初  
めて「死」が生まれる。「生」って言葉があって初めて「生」  
が生まれる。だから逆に言うことやで。言葉にさえ囚われなき  
や、私たちは「死」を恐れなくて済むし、逆に言葉の力を信  
じればいつだって一恵に会えるんよ？

**義男** 全然わかんないっす。

**柚香** 難しい？

**義男** はい。

**柚香** じゃあわかりやすくとえ話。

柚香は義男を立たせる。

指を回しながら、

**柚香** どこにしようかなあ……天の神様の言うとおり……じゃ  
あ、(こ)。あ、(こ)。

柚香は義男の鎖骨に指を置く。

**柚香** (一言ずつ、確かめるように) 君の、鎖骨に、一恵が、眠っ  
ています。

義男 ……

柚香 どう？

義男 どうって……

柚香 一恵、寝てたでしょ？

義男 ……

柚香 すごいやろ？ 言葉って。

義男 ……

柚香 一恵は何て言ってる？ 耳をすませて。ね？

柚香は下手へ。

柚香 それから普通っていう言葉も人間が勝手に作ったもんや

しな。普通とか普通じゃないとか、そんなものに囚われんと  
いてな。

柚香は去る。

義男は鎖骨を押さえながら、

義男 ねーちゃん……ねーちゃん。起きて……起きて？

義男の鎖骨で一恵が眠りから覚め、微笑んだような気がす  
る。

ずっと義男の胸の痛みが引いていく……

★

過去（二〇〇五年七月）。

昼頃。

義男は角材に網を取り付けようと奮闘している。  
そこへ缶ジュースを持った拓次がやってくる。

拓次 うっす。

義男 すいません。呼び出して。

拓次 いいよ。丁度会いたいと思つてたし……何してんの？

義男 へへ。

拓次 ほれ。

と拓次は缶ジュースを手渡す。

義男 おおきに。

拓次 元気？

義男 うん。

拓次 ……何か進展あつた？

義男 いえ。警察は何も。なんかああいう事故つて普通はヘツ  
ドライトの破片とか落ちてるみたいなんですけど、全然道に  
も落ちてなかつたみたいで。夜も遅かつたし目撃者もおらへ  
んし。犯人が自首しない限り無理ちやうかなあ。

拓次 ……いいの。君はそれで？

義男 いいつていうか捕まつたところであつて感じですよ。

拓次 駅前でビラとか配らないの？

義男 ビラ？

拓次 よくあるじゃん。目撃者求む的なさ。

義男 その発想はなかつたです。たぶん親父もおかんもそんな

気ないんちゃうかな。知らないすけど。

**拓次** ……

**義男** 戦争してる国ではさ、家族が殺されるのってよくあることですか？

**拓次** そうだなあ……一度、取材で仲良くなっても、次に行ったら爆撃で全員亡くなってたっていうのは一度や二度じゃないな。

**義男** ……

義男は地面に置かれたネットを広げる。

それは幅一メートル、高さ二メートルぐらいのネットだ。

**義男** ジャーン。猫、飛び出し防止ネットおとおお。これを、宇治川沿いの道路に張り巡らせませす。拓次さん、知ってる？

意志つてのは引き継がれていかな駄目なんすよ。ねーちゃん  
は猫を助けようとして撥ねられたんす。だから俺が代わりに  
猫を守んねん。どうか俺を猫の守護天使と呼んでください。

**拓次** 張り巡らせるって……たったそれだけで？

**義男** これを何個も作るんすよ。

**拓次** そんなのめちやくちや大変じゃん。宇治川、どんだけあると思ってるのよ？

**義男** 長いすね。でもやります。もちろん費用は自分で稼ぎます。俺、アルプラのマクドでバイトすることにしたんす。

**拓次** バイト？

**義男** やっと元気出てきました。元気満点星が魅力のこの俺が、

いつまでも引きこもってるわけにはいかんしさ。そうでしょ？

**拓次** ……あんまり無理すんなよ。

**義男** 無理なんてしてないっすよ。

**拓次** ……

**義男** 持ってきてくれました？

**拓次** ああ……

拓次はカバンから写真集を取り出す。

**拓次** でもさ、いいの？ 思いださない？ お姉さんのこと？

**義男** 大丈夫。

義男は写真集を見始める。

**義男** ……これはいつのやつ？

**拓次** イラク戦争。前、911の話しただろ？ あれから始ま

ったやつ。

**義男** ……

義男は黙って写真集を見ている。

**拓次** その辺の写真は、どのタイミングで撮ったか覚えてないんだ。

**義男** 拓次さんは死ぬのは怖くないん？

**拓次** え？ 怖いよ。怖いに決まってる。

**義男** でも行くのはなんで？ 仕事だから？

**拓次** まあ半分は仕事。半分は病気。

**義男** 病気？

**拓次** 一度、あれを体験しちゃうともう日本の日常に耐えられなくなる。戦地にいる時は一刻も早くこんなところから抜け出したかったと思うけど、いざ戻ってくると駄目なんだ。でもそれでいいと思ってる。死んだように生きているよりはるかにマシだ。

**義男** ……俺、拓次さんの写真、好きだ。

**拓次** お。褒めてくれるの？

**義男** ……嘘つかへんって思う。

拓次は何と答えていいのかわからず誤魔化すように、

**拓次** ……サンキュー。

拓次はコツンと義男の頭を軽く叩く。

義男は気張って、

**義男** センキュー!!

**拓次** ……そういうときはユアウエレカムって言えばいい。

**義男** (意味が理解できず) ……センキュー!!

**拓次** ……まあいいや。

**義男** ……拓次さん。初めて会った時、写真は本当を映すって

言うたやん？

**拓次** うん。

**義男** 俺な、もう自分に嘘、つきたくないんよ……だから、俺のこと、撮ってくれませんか？ ……ねーちゃんもそれがいいって。

義男は鎖骨をさする。

**拓次** ……今日の夜、カメラ持ってまた来るわ。

夜がやってくる。ガレージの窓が浮かび上がる。

ラジカセから音楽。

写真を撮っている拓次。

客席からは義男の後ろ姿だけが見える（最後まで義男の顔は見えない）。

**拓次** ……時々、自分の中の秘密が爆発しそうになる。でも必死で抑え込む。それを爆発させたら人間扱いされないのはわかっているから……ずっと死にたくてさあ。ちょうど、君がらの頃から。今、考えると完全に鬱病だった。毎日消えたい消えたいって思ってた。希死念慮がやばくてさ。当時は鬱病なんて言葉、全く知られてなかったし。それでとにかく家から逃げ出したくてありつたけの気力絞って外国行ったのよ。ちなみに金は親から盗んでやった……外国だったら誰にも知られずに消えるって……バカだよな。でもたまたまカメラマン目指してるやつと知り合って、そいつが撮った写真に銃で撃たれたおっちゃんの写真があって……思ってしまった……これだって……すつと生きる気力が湧いてきた……世間的には戦場の悲惨さを問う戦場ジャーナリストだけど、ほんとはな、違うんだ。

**義男** ……

拓次は写真を撮り終える。



**拓次** また現像できたら持ってくるわ。

**義男** うん。

**拓次** じゃあまた。

**義男** 今日はありがとう。

**拓次** おお。

義男は突然、拓次に抱きつく。

**拓次** おい。

**義男** 拓次さん!! 俺さ、今、最強だわ。いまだかつてないぐ

らい最強やねん!!

喜びを爆発させる義男。

拓次もつられて笑顔になる。

義男を祝福するかのように音楽の音量が上がっていく……



現在（二〇一五年七月）。

**京子** ……一つ悪いことが起きるとまた悪いことが起きて、永

遠にそれは終わらへん……その本を出したら、この悪い流れ、

断ち切れるんですか？

**昌美** ……わかりません。でも私は断ち切りたいと思っています。

柚香と透が戻ってくる。

**京子** ごめんなさい。ビール持ってくるの忘れてました。取っ

てきますね。

京子は逃げるように上手へ去る。

何かを察した柚香は京子の後を追う。

**昌美** (柚香に) あの、

立ち止まる柚香。

何かを言おうとした昌美。

だが言葉が続かず、

**昌美** あの、お寿司、もう大丈夫なんで。

**柚香** あ、はい。

柚香は寿司を持って去る。

**透** ……さつきはすいませんでした。

**昌美** ううん。私もよくわかる。あの事があつてから、私のところにも毎日のようにきたし。

**透** 俺、テレビの会見、見てなくて。だからお顔も存じ上げなくて。

**昌美** そんなの、見てた人だつてわかんないよ。やっぱりテレビで見ると実際は違うみたいだし。

昌美はベンチに座り、煙草を吸う。

**透** そんなもんですかね。

**昌美** そうよ。

**透** ……実はずっと緑川さんの映画評、読んでました。

**昌美** 本当に？

**透** 映画ジャーナル、昔、連載してたでしょ。

**昌美** うわー懐かしい。

**透** 俺、最初、緑川さんって男の人だと思っていて。ほら、正しいに巴でマサミだったから……

**昌美** よく言われる。

**透** 結構、緑川さんの紹介で観た映画多いです。

**昌美** 好きなの？

**透** 一番好きだったのはアレです。俺、昔、バスケットボールやってて、だからディカプリオの……

**昌美** バスケットボールダイアリーズ。

**透** はい。

**昌美** しばらく観てないなあ。

**透** 俺もです。

**昌美** 義男くんはスターウォーズ好きだったよね……私は完全に旧三部作派だったけど義男くんは新三部作派。信じられないよね。

**透** 義男とはよく……？

**昌美** うん。あの子、お金がなくてさ。よくうちにご飯、食べに来てた。初めて義男くんに会った時のこと、今でも覚えてる……最初はね、彼が来たらずに京都に帰りなさいって言うつもりだったの。ご両親に何も言わず家出同然で東京に出たのは聞いてたし。でもね、私、一目彼を見て、説得するのを諦めた。わかったんだ。ああ、この人は拓次と同じなんだって……

**透** ……

**昌美** 私と拓次は夫婦っていうより、どっちかっていうと親友だったのかも。少なくとも拓次はそう思ってた気がする……私さ、絶対、拓次は死なないと思ってた。誰よりも優秀なジャーナリストだったし、何よりいつだって引き際をわかまえてた。でも世の中に絶対はないね。残念ながら……気になつてたことがあるんだけど。

**透** はい。

**昌美** 義男くんが学校をやめた時も二人は二人で入れたの？

**透** ……

ここで拓次が下手より入ってくる。

拓次はベンチに座る昌美の隣へ。

(もちろん昌美にも透にも彼の姿は見えていない。彼の登場もまた、一恵と建人のシーン同様、時間軸がずれている)。

**昌美** ごめん。

**透** わかりません……

**昌美** そっか。難しいよね。私にも難しかった……だから親友。

**透** ……

**昌美** よかったら透くん。また会えないかな？ 実はあの事件のこと、本にするつもりなんだ。だから義男くんのこと、君からも教えて欲しい。

**透** ……それは、誰かが傷つくことは承知で？

**昌美** ……

**透** 俺は反対です。本にするの。そんなことしたらまたあの事

がぶり返される。そつとしておいたほうが良くないですか？  
やつと落ち着いてきた頃じゃないですか。

**昌美** 透くんの中で、あの事はもう終わってるの？

**透** ……

**昌美** たぶん、逃げてても逃げてても私たちはそこから逃げきれないんじゃないかな？ だとしたらこつちから突っ込んでみない？

**透** 俺は……もうたくさんです。

**昌美** 私はもう逃げない。それにね。これは義男くんの夢でもあるんだ。

**透** ……

★

過去（二〇〇五年七月）。

ベンチに座る拓次と地面に体育座りをしている義男。

**拓次** スマグル。

**義男** スマグル。

**拓次** 英語で密入国って意味。基本的に紛争地帯って一般人は入国できないんだ。だから入国するとなると必ず現地での手引きが必要になる。俺は東京に住むイラク人の知り合いがいてさ、その人の叔父に頼んで入国してる。

**義男** 捕まったりせーへんの？

拓次 一回ある。

義男 マジで？

拓次 うん。運良く金で解決できたけど、あの時は焦ったなあ。

義男 ぶっ飛んでるよなあ。拓次さんは。

拓次 君に言われたくはない。

義男 へへ。

拓次 ……でも随分思い切ったことしたよな。いきなり化粧し

て学校行くなんて。みんなビックリしたろ。

義男 うん。

拓次 大丈夫か？ 無理すんなよ。

義男 ……拓次さんはそればかりやな。

拓次 心配してんだよ。

義男 大丈夫です。

拓次 じゃあ何で学校に行ってないの？

義男 行ってますよ。

拓次 今、何時？

義男 十一時。

拓次 行ってないじゃん。

義男 今日、日曜日。

拓次 月曜日。

義男 ……本当に大丈夫だから。まあちよつとずつって感じ。

拓次 ……

義男 拓次さん、またお願いがあるんやけど。

**拓次** おお。

**義男** お金貸してくれへん？

**拓次** お金？ 何に使うの？

**義男** ……猫飛び出し防止ネット。マクドのバイトだけじゃ全然足りひん。

**拓次** そりゃあそうだろ。

**義男** 貸してもらえますか？

**拓次** ……もう十分じゃないの？ あれ、全然機能してない。君も見ただろ。猫がよじ登っていくの。

**義男** ……

**拓次** なんで猫はそうまでして道に飛び出していくんだと思う？

**義男** 全然（わかりません）。

**拓次** 今、住んでいる家、元々俺のばあちゃんが暮らしててさ。

俺も小学一年生ぐらいまでそこに住んでたんだけど。

**義男** 元々関西の人なん？

**拓次** うん。小二ぐらいから東京に引っ越して、今、戻ってきた感じ。

**義男** だから関西弁じゃないんや。

**拓次** そうそう。それでさ、ばあちゃんが言ったこと、思い出したんだ。昔はここ、たくさんの猫が住んでたんだって。でも道路ができて、車が行き来するようになって、猫が轢かれるようになって……あいつら、俺の街で何してんだよって怒

ってるんじゃないかな？　そのために体張って飛び込んでくるんじゃないか？　そもそも俺らが勝手にこの場所に住み着いて道路作って無差別に猫を殺してるわけでしょ？　で、飛び込む派と飛び込まない派がいて、それらはお互い憎み合って殺しあって、さらにそれを俺らが殺して……

**義男**　もしそうだとしたら、それってどうやったら終わるんですか？

**拓次**　……

**義男**　拓次さん。ピューリツァ賞って知ってる？

**拓次**　もちろん。調べたの？

**義男**　なんかあれ、欲しくなってきた。

**拓次**　はあ？　なんで？

**義男**　すっごい賞やる？

**拓次**　何？　カメラやりたいの？

**義男**　うん。実はすごいこと考えたねん。自分みたいなのがさ、その賞もらってヒーローになるねん。そしたら世界、変わらへんかな？

**拓次**　……レプリゼントか。

**義男**　え？

**拓次**　（力強い口調で）マイノリティを代表するってこと。

**義男**　……マイノリティ？

拓次はがっくり肩を落として、

**拓次**　まずカメラの前に英語だな。



義男 教えてくれるん？

拓次 ……いや。

義男 なんで？

拓次 反対だから。

義男 ……

拓次 義男くん、本当に簡単に人は死ぬんだよ？ もしここで

俺が協力して君に何かあつたら悔やんでも悔やみきれない。

義男 ……学校やめた。

拓次 ……

義男 弟子にしてほしい。

すると建人が下手から入ってくる。

見つめ合う建人と義男。

義男が先に目をそらす。

拓次 どうも。お邪魔してます。緑川といいます。

建人 誰か知らんけど帰ってくれる？

建人は義男へ一直線に向かう。

義男の頭を無理やり掴み、下手へ引きずり始める。

建人 行くぞ。

義男 離せ……離せよ。

建人 お前、何を俺に恥かかせとんねん。

義男 離せよ!!

義男は建人から離れる。

義男 ……もうやめてん。

**建人** 電話一本でやめられるわけないやろ。

**義男** やめれへんくても単位たりひんようになった退学やろ。

**建人** そんなこと俺がさせへん。

**義男** 学校に行くか行かへんかは自分が決める。

**建人** 違う。それを決めるのは俺や。お前は、学校へ、行くんや。

**義男** 行かへん。

**建人** ……（涙声で）しっかりしてくれよ!! お前、ほんまに

頭、おかしなっただんか? 急に化粧なんか始めやがって!!

もう一恵は死んだんや!! ええ加減それ、認めんかい!!

**義男** 認めてないんは父ちゃんやないか!! 大体、今までずっとほっといたくせにねーちゃんがおらへんくなっただからって急に構ってくんない!!

**建人** ほっといたわけじゃない!!

**義男** 嫌いやねん!! あんたのことが!!

問

**義男** ……何で怒鳴る前に化粧の理由、聞いてくれへんの?

何で学校やめたい理由、聞いてくれへんの? 何でいつも自分

分が正しい思ってるの? さらに言っただる。バスケットも死

ぬ程嫌いや!! 何無理やりバスケットやらしてんねん!! 自分が

プロになれなかつたんは自分のせいやん!! 俺、関係ないや

ん!! もっと言っただる!! このゴツイ身体も、義男って名前

も大嫌いやねん!! もっとももっとも言っただる!! ほんま

は俺が死ねばよかったって思ってたんねんやろ？ 知ってんねん！！ 俺よりねーちゃんの方が大事やったってことも！！

建人は咄嗟に掴みかかる。

しかし何も出来ない。

何も言わずに下手へ去る。

**拓次**

義男くん、言い過ぎだよ。

拓次は去る。

**義男**

……言っただ。言うたつた。とうとう言うたつた！！

義男は俯く。

涙をぬぐう。

堤防沿いの道路から声がする。

**声**

おーい。義男くーん。

義男は堤防を見上げる。

そこには柴田とクラスメイト、そして透がいる。

**声**

俺らと遊ぼーや。

**義男**

……

**声**

無視すんなや。

男たちの笑い声。

義男は強く拳を握りしめる。

**声**

今日は、化粧、せーへんの？

**義男**

……

**声** ほら、透、お前もなんか言えや。ほら！！

**義男** ……透！！

透 ……

義男 来週の花火大会、一緒に行こ？ 約束な。

★

現在（二〇一五年七月）。

昌美 透くんの中で、あの事はもう終わってるの？

透 ……

昌美 たぶん、逃げても逃げても私たちはそこから逃げきれないんじゃないかな？ だとしたらこっちから突っ込んでみない？

透 俺は……もうたくさんです。

昌美 ……私はもう逃げない。それにね。これは義男くんの夢でもあるんだ。

透 ……

京子と柚香が上手から戻ってくる。

柚香はお盆にビールを載せている。

京子 昌美さん、飲みましょう。

昌美 ……いえ、私は。

京子 いいから。

京子はコップを昌美に持たせてビールを注ぐ。

京子はビールを飲もうとするが、躊躇した後、やはり飲まない（或いは飲めない）。

京子は昌美に向けてぎこちなく笑う。

**透** おばちゃん、本のこと聞きました。本当にいいんですか？

**京子** ……昌美さん。書いて頂いても大丈夫です。

**昌美** ……ありがとうございます！

**京子** ただ一つ……一つだけ聞かせて頂きたい事があります

……昌美さんは……昌美さんは義男の最期はわからない、以前、そう仰いましたよね？

**昌美** ……

**京子** 本当はご存知なんじゃないですか？

**昌美** ……

**京子** ご存知なんですよね。拓次さんからの最後のメール……

私に……教えて頂けませんか？

**昌美** ……

**京子** お願いします。昌美さん、うち、知りたいんです……例

えそれがどんなに悲惨なものであっても。

京子は震えている。

手を握る柚香。

義男がガレージの扉から入ってくる。

義男は透の前へ。

**義男** 引き出し、これしかなかったわ。

義男の手には何かを包んだ風呂敷。

**義男** ねーちゃんからの最後の誕生日プレゼント。

**透** ……

義男 透……やめとけ。

透 ……おばちゃん、俺もここにいていいですか？

京子は頷く。

昌美 二〇一四年一〇月のことです。

義男 大げんかしてん。拓次さんと。

拓次が現れる。

拓次 やっぱり君のことは連れていけない。

昌美 義男くんは一人で勝手に飛行機に。

義男 マジでふざけんなって感じ。

拓次 義男くんを追って俺は

義男 自分は

拓次 トルコへ

義男 トルコへ旅立った。

飛行機の轟音が聞こえてくる。

庭のフェンスがトルコとシリアの国境にゆっくり変化して  
いくと暗闇がやってくる。

(以降のシークエンスはすべて暗闇の中、行われる。聴こ  
えてくるのは声のみである)。

静かな音楽。

拓次 深夜十二時

義男 トルコ・リハーニヤ

拓次 国境の町

義男 オリーブ畑

拓次 現れた運び屋

義男 手を繋ぐ

拓次 どこまでも続く寂れたフェンス

義男 トルコとシリアの国境

拓次 国境警備隊のサーチライト

義男 色は緑

拓次 大きな穴を抜ける

義男 人影

拓次 自由シリア軍の兵士だ

義男 兵士に連れられ森を抜ける

拓次 夜が明ける

義男 車に乗ってアナダンへ

拓次 爆撃された町

義男 粉々になった町

拓次 タルトゥースから飛んできたミグ23戦闘機の爆音

義男 毎日

拓次 毎日

義男 毎日

拓次 毎日

義男 空爆

拓次 空爆

義男 空爆

拓次 空爆

義男 アレッポ

拓次 隠れ家へ

義男 玄関にはアサドの顔

拓次 アサドは絞首刑だ!!

義男 ゴーストタウン

拓次 配給所

義男 溢れかえる人混み

義男 凄まじいゴミの匂い

拓次 えぐられた団地

義男 もうすぐアサド軍の空爆が始まる

拓次 ダマスカスからのスカッドミサイル

義男 降り注ぐ灰

拓次 真っ白な瓦礫の山

義男 何人死んだ?

拓次 百五十人

義男 まだ埋まっている?

拓次 埋まっている



義男 地平線に広がるのは

拓次 アトマ難民キャンプ

義男 国連の支援は？

拓次 ない

義男 気が狂った子供

拓次 足のない子供

義男 挟られた眼球

拓次 背中に刺さったミサイルの破片

義男 未熟児が昨日 三人死んだ

拓次 あそのこの女 昨日 娘と息子を亡くしたんだ

拓次 ここではそれが当たり前

義男 家族は殺されて当たり前

拓次 見てみる アレツポ城の向こう側

拓次 あそこには ISISがいる

義男 連れて行ってくれ 俺を あの向こう側へ

義男 夜がやってくる

拓次 出撃前の礼拝

義男 ジハードと天国について

拓次 泣き出す兵士

義男 人の生死は全てアラアが決める

拓次 銃を使ったことは？

**義男** ない

**拓次** A K 47 これで殺せる

銃撃戦の音。

★

**義男** 気がつく俺は白い部屋にいる

拷問が始まる

大量のコーラを飲まされた

逆さ吊りにされた

大音量のヘッドフォン

音楽の音量が少しずつ大きくなってくる。

(ここで初めてこのシークエンスで流れていた音楽が義男のヘッドフォンから流れていたものだとわかる)。

**義男** 全てアメリカのCIAがやったこと

恨むならアメリカを恨むんだな

気を失う

大量のコーラを飲まされた

逆さ吊りにされた

大音量のヘッドフォン

耳がイカれる

局部を紐で縛られた

もう子供は出来ないな

大量のコーラを飲まされた

逆さ吊りにされた

大音量のヘッドフォン

大量のコーラを飲まされた

逆さ吊りにされた

大音量のヘッドフォン

大量のコーラを飲まされた

逆さ吊りにされた

大音量のヘッドフォン

大量のコーラを飲まされた

逆さ吊りにされた

大音量のヘッドフォン

音量が限界に達すると義男の鼓膜が弾け飛ぶ。

静寂がやってくる。

**義男** お前の家族に電話した

日本人は金になる

おい

おい

おい

おい

日本はお前を見捨てたぞ

ゆっくりと暗闇に光が差し込んでくる。

義男は拘束具を着せられている。

手足は縄で縛られ身動きが取れない。

**義男** 匂いがした

火炎放射器で焼かれる匂いだ

色んなことを思い出した

本当に色んなことだ

薄れゆく意識の中で

お前が見えた

楽しかったな

お前は友達だった

お前は唯一の友達だった

★

現在（二〇一五年七月）。

**京子** 昌美さん。ありがとうございます。またいつでもきてく

ださい。出来る限り協力させて頂きます。

頭を下げる京子。

頭を下げる昌美。

京子は頭を上げられない。

ハンカチで顔を抑える。

柚香は京子を支えながら上手へ去る。

**昌美** ……透くんは見た？ 拓次がオレンジ色の服を着て、砂

漠に跪いている映像。

**透** ……

**昌美** 遠いのに近い……近いのに遠い、あの罪悪感……もしか

したら拓次を殺したのは私かもしれない……時々そう思うの。

**透** ……同じです。義男を殺したのは俺かもしれない。

昌美は去る。

沈黙。

ガレージの扉からラジカセを持った手が伸びてくる。

曲が流れ始めると、義男が浴衣を着て現れる。

義男の可愛さに言葉を失う透。

**義男** ジャーン。色っぼいやろ？

**透** ……

**義男** ツッコミ！ 遅い。

**透** ……

**義男** ちよつとサイズちっちゃいな。そーいう大雑把なところが

ねーちゃんクオリティやねんなあ。

**透** ……

**義男** お前、十年前の花火大会、けーへんかったやろ？ 待つ

てたんやで。

堤防の向こうから花火が上がり始める。

堤防を見上げる透。

義男は小走りで透の隣へ。

腕に手を回す。

義男を見る透。

**義男** 何？ ビビってんの？

**透** ……ビビってへんわ。

**義男** 恥ずかしい？

透は首を振る。

**透** ……義男。

**義男** ん？

**透** 俺にお前の納棺、させてくれへんか？

注：ここでの「納棺」は「湯灌」のこと。

**義男** ……今、浴衣着たばかり……それにえぐいぞー。火傷

で身体、グジュグジュやねん。あんまり見せたくないねん

か？

**透** 大丈夫だから。

義男は透から離れ、ベンチに寝転がる。

かつて一恵がそうしていたように。

**義男** ……好きにしなよ。

透は義男の足元で正座し、客席に顔を向ける。

**透** 湯灌と申しますのは、現世での煩惱、痛み、苦しみなどを

洗い清める儀式でございます。それでは始めさせていただきます

前に……。

透は手を合わせる。

**透** 失礼します。

世界には透と義男、二人だけになる。

**義男** 透。これが終わったなら、お前の鎖骨で眠っていい？

**透** ……うん。

**義男** ありがとう……最後に口紅、塗ってほしい。ええかな？

透はポケットから口紅を取り出す。

透は義男の頬に触れて……

終わり

#### 参考文献

『ジャーナリスト後藤健二』栗本一紀

『なぜ後藤さんを救えなかったか』西谷文和

『僕がイスラム戦士になってシリアで戦ったわけ』鶴澤佳史

『シリア内戦 イスラム国の正体を暴く』(DVD) 西谷文和

『言葉と無意識』丸山圭三郎

『覚悟——戦場ジャーナリストの夫と生きた日々』橋田幸子

『トランスジェンダーの心理学』佐々木掌子

『ここからは遠い国』岩崎正裕

『リリーのすべて』トム・フーパー監督

『キッズリターン』 北野武監督

註

シリアの再現シーンは戦場ジャーナリスト西谷文和さんへの取材の元、構成されています。多大なる御協力、この場にてお礼申し上げます。